

消 息

大月博司先生のご退職にあたって

大月博司先生はめでたく古希を迎えられ、早稲田大学の定めにしたがって、本年 3 月末日をもって退職されます。先生のご退職にあたり、学部を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

大月先生は 1975 年 3 月早稲田大学商学部をご卒業ののち、同大学大学院商学研究科修士課程へと進学され、引き続き博士後期課程に進まれました。1982 年 4 月北海学園大学経済学部専任講師として嘱任され、以来 40 年間大学教員としての道を歩まれました。北海学園大学では助教授、教授と昇任され、同大学経営学部教授を経て、2004 年 9 月早稲田大学商学部教授として嘱任されました。2004 年 9 月に現在の学術院体制が成立しましたので、商学学術院発足後はじめての着任の先生となります。早稲田においては 17 年 7 か月にわたって教育と研究の時間を過ごされました。

先生は、我が国の経営管理論研究において先駆的な役割を果たされた故車戸實名誉教授のゼミで学ばれ、研究に励まれました。とりわけ理論や学説に主軸を置いた経営組織論や経営戦略論に関して多くの業績を残されています。単著として『組織変革とパラドックス』（同文館出版、1999 年、2005 年改訂版）、『経営のロジック』（同文館出版、2018 年）を挙げることができます。前者は学位請求論文の対象となったもので、これにより 1999 年 9 月早稲田大学から博士（商学）が授与されました。その他にも共著 5 点、編著 3 点、分担執筆 6 点に加えて多数の論文を執筆されるなど、旺盛な研究生活を送られてきました。2007 年から 2010 年に掛けて日本経営学会常任理事、2010 年から 2013 年に掛けて同学会理事、2010 年から経営戦略学会会長をお務めになり、学界においても指導的な立場に立たれました。先生の学識や知見は、大和住銀投信投資顧問株式会社社外取締役（2016 年から 2019 年まで）、りそなアセットマネジメント株式会社社外取締役（2020 年から現在）としても活かされ、経営学の実践的側面をみずから体现されています。大月先生の教育・研究上の功績について詳細な紹介は藤田誠先生による消息をご参照ください。

他方、学内においては、横田信武学部長のもとで学生担当教務主任（2006 年 9 月か

ら2008年9月まで)をお務めになり、学生生活の向上に貢献されました。先生の教務主任在任時は、それまでの学生運動が沈静化する一方で、われわれが学生の心的部分に起因する問題に直面しつつある時期で、学生担当副主任であった坂野慎哉先生とともに学生との面談にあたるなどご苦労が多かったものと推察いたします。教務担当教務主任の嶋村和恵先生、同副主任の中村信男先生、入試担当教務主任のヤヌシュ・ブタ先生との連携もよく、安定した学部運営に注力されました。また、準硬式野球部部长(2008年4月から2011年9月、2012年10月から2022年3月)として、長きにわたって早稲田スポーツの隆盛にも大きな足跡を残されています。

本年1月22日、先生は「経営学の面白さ」と題する最終講義をされました。コロナ禍にもかかわらず、当日はゼミ出身者を中心に200名に及ぶ出席者がありました。これは、先生が厳しいながらも学生一人一人との関係を大切にされてこられた結果ということができるでしょう。それだけ学生から慕われていたということもできます。先生が長年担当された「経営学」も多数の学生が受講する人気の授業でした。通常、最終講義は出席者が旧交を温める機会となるはずですが、大々的な催しができず残念なことであったと思います。しかし、ささやかながらもゼミのOB・OGと有意義な時間を過ごされたのではないかと考えております。このような学生思いの先生だからこそ、学生担当教務主任はまさに適任でした。2008年9月の学部運営委員会は先生の教務主任在任中最後の会議でしたが、次期教務に引き継ぐ学生問題を適切に裁いておられたことを思い出します。任期切れを迎える最後の日まで強い使命感と責任感をもって仕事にあたられました。

先生の近著『経営のロジック』では、企業を取り巻く新たな環境や動向を考慮されながら経営学を論じておられます。コロナ禍にあって企業組織はどのような方向に向かうのか、おそらく先生の研究はさらに深化するものと思われます。古希とは思えないほど若々しい先生ですが、今後ともご健康に留意され、お元気に過ごされることを祈念いたします。先生の早稲田大学とりわけ商学部に対するご貢献に心から感謝を申し上げます。

大月先生、長きにわたり、ありがとうございました。

早稲田大学商学部長
早稲田商学同攻会長
横山 将義